SATREPS プロジェクト

ガーナ：沿岸域の持続的な保全、防災、生活改善を実現する総合土砂および環境管理手法の構築

「沿岸域の持続的な保全、防災、生活改善を実現する総合土砂および環境管理手法の構築」プロジェクト（研究代表者：田島 芳満　東京大学大学院工学系研究科教授）（JST 側研究期間：2024 年 6 月 1 日から 2030 年 3 月 31 日まで）は、西アフリカで深刻化する海岸侵食と浸水災害の増大、環境劣化、生活困窮を軽減し、防災と環境保全、生活改善の好循環を実現する持続的・国際的な総合土砂管理や環境管理対策の推進を目的としています。ICHARM は、対象地における河川からの土砂流出のモニタリングおよび予測モデルの開発を担当しています。

2024 年 9 月 28 日から 10 月 11 日まで、ICHARM の秦梦露専門研究員が日本側の研究代表チームに参加し、ガーナ共和国に渡航しました。今回の渡航では、主にプロジェクトの実施体制について、ガーナ側の代表機関であるケープコースト大学沿岸域管理センター（ACECoR : Africa Centre of Excellence in Coastal Resilience, Centre for Coastal Management）および現地の協力機関と協議・合意を行いました。また、ACECoR と協力して、10 月 3 日から 10 月 5 日まで、研究対象地域である Volta 川の Akosombo ダム下流および Densu 川の Weija ダム下流の河川区間、ならびに海岸沿いを視察しました。



写真 1　ボルタ川河口部のラグーン地帯の視察





写真 2, 3　ボルタ川河口周辺で進行する海岸侵食により、最近2年間で陸地から切り離された家屋

（左：2022 年 10 月, 右：2024 年 10 月）

2025 年 8 月 8 日～14 日には、秦梦露専門研究員がガーナに渡航し、対象地の現地視察と第 1 回合同調整委

員会（JCC）に参加しました。8 月 8 日から 11 日、および 13 日の 5 日間 には、Volta 川と Pra 川の河口および数キロ上流区間を船で移動し、河床・河岸の状況を確認するとともに、ソナーセンサーによる試験的な深浅測量を実施しました。さらに、トーゴ国境から Pra 川に至るガーナ沿岸域を調査し、昨年 10 月の調査と比較して浸食・堆積が大きく進んでいることを確認しました。





写真 3, 4 2025 年の深刻な海岸浸食による流出した家屋、第 1 回 JCC 会議

2025 年 10 月 23 日、プロジェクト代表である東京大学の田島芳満教授をはじめ、ケープコースト大学（UCC）Moses Jojo Eghan 教授および ACECoR（Africa Centre of Excellence in Coastal Resilience, Centre for Coastal Management） よりガーナ側のプロジェクトマネージャー Donatus Bapentire Angnuureng ら計 5 名が ICHARM を訪問しました。



写真 5　ACECoR 研究員（中央 3 名）、随行の教授と ICHARM 研究員

2026 年 2 月 24 日から 3 月 17 日にかけて、ICHARM の秦梦露専門研究員とカティア　ルビ　アルネス　フェレル専門研究員は、ACECoR のガーナの関係者との協力のもと、ガーナの Pra 川下流域と Volta 川流域を中心に、大規模な現地調査を実施しました。





写真 6,7　Pra 川での測定作業の様子



写真 8　観測を行う ICHARM と

ACeCOR の調査メンバー